

まい 埋やち

No.16

千葉県八千代市
埋蔵文化財通信
2008. 2. 22
(平成20年)

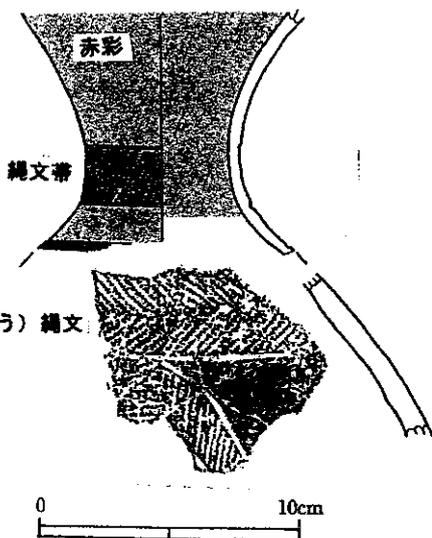
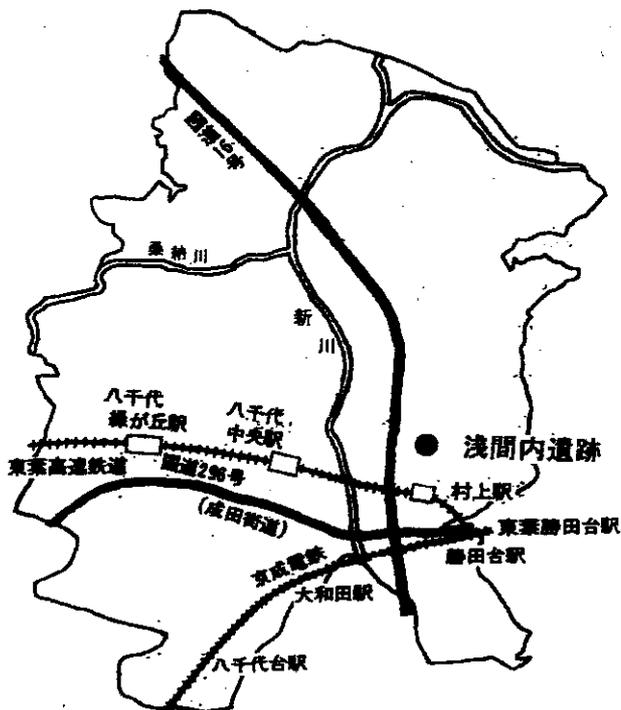
浅間内 (あさまうち) 遺跡特集(2)

No.14 に続き、浅間内遺跡を特集します。

【弥生時代の浅間内遺跡】

今回は、弥生時代をとりあげます。一般的には稲作と青銅器・鉄器使用などで特徴づけられる時代です。

弥生時代中期 縄文時代後期 (今から約 4000 年前) からの長い空白期の後、弥生中期 (約 2000 年前) に至って、再び痕跡が現われます。それは、下図に示した壺 (つぼ) です。弥生後期の D112 住居跡 (次頁の上段の図を参照して下さい。) の覆土 (ふくど) から出土しました。中期の遺物は、これだけです。



弥生中期の壺

弥生時代後期 後期の遺構は、竪穴住居跡 19 軒や墓跡などがあります。

1 竪穴住居跡 縄文時代以来の伝統的な住居形態が続いています。

2 墓 弥生時代前期からの伝統である壺棺墓と、後世の古墳へつながる墓制の方形周溝墓という 2 種類の墓が、東西に分かれて存在します。まさに時代の変化の様相が浅間内遺跡に残されていたのです。

3 各種土器と文様 器種は、甕 (かめ・細型と広口型がある)・壺・浅鉢・高坏・小型土器などがあります。甕が多数を占めていて、種類は少ないという印象です。

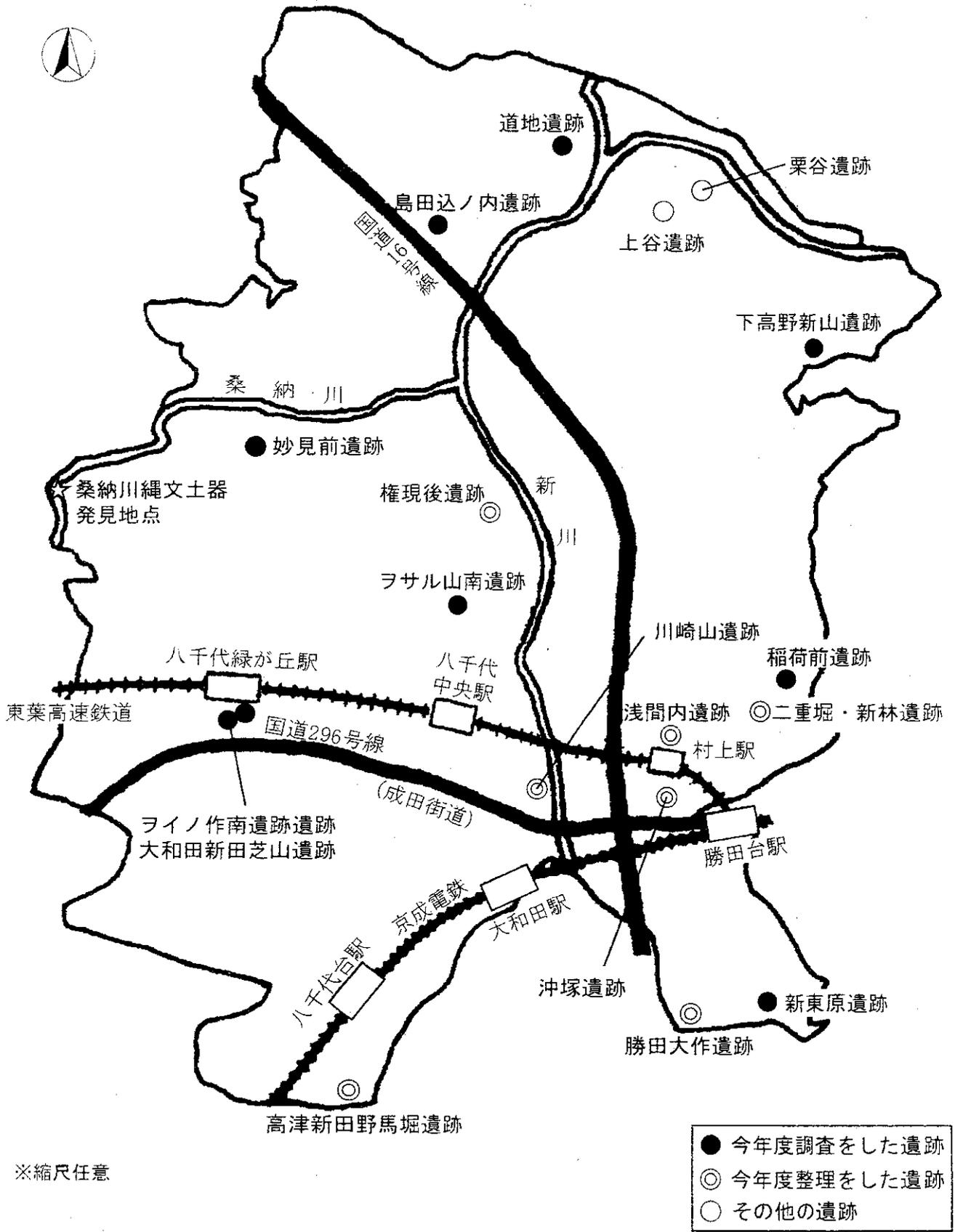
文様の中心は、縄に撚糸を巻きつけた附加条 (ふかじょう) 縄文や結び目を回転させた結節文 (けっせつもん) です。ほかに輪積みを段状に残したものの、刻みや刺突 (しとつ)、櫛描文 (くしがきもん) などがあります。

土器の底面には木葉痕が見られることが多く、木葉の上で土器を作ったことがわかります。布の痕跡が付く例もありました。

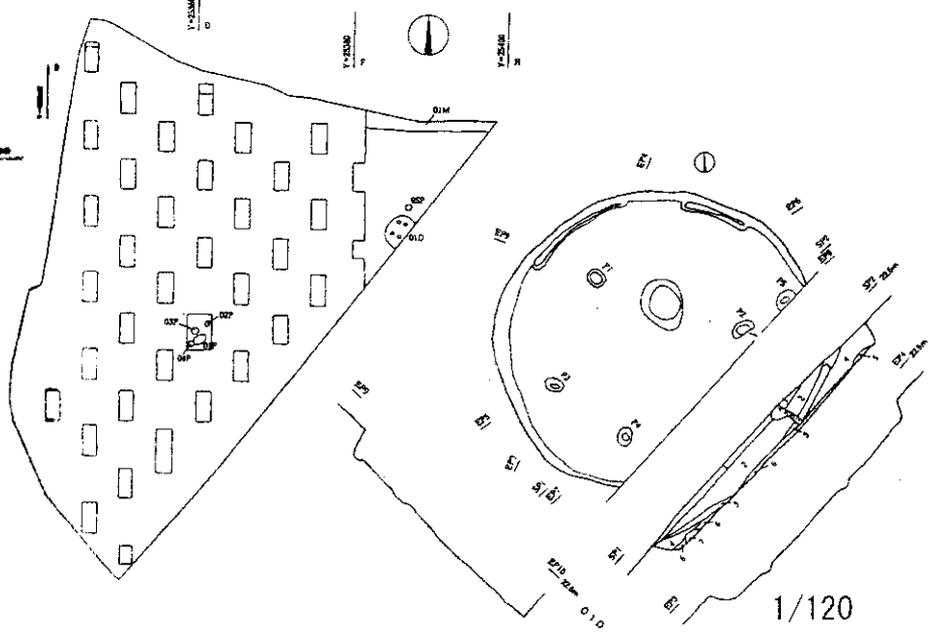
東京湾沿岸地域で作られた南関東系土器、霞ヶ浦沿岸地域で作られた東関東系土器などが見られ、「文化の交差点」ぶりがうかがえます。

4 その他の遺物など 土器以外の遺物は少ないのですが、土製紡錘車 (ぼうすいしゃ)、砥石、鉄製品などがあります。穂摘具と思われる鉄製品は貴重です。

平成18年度に調査・整理した遺跡

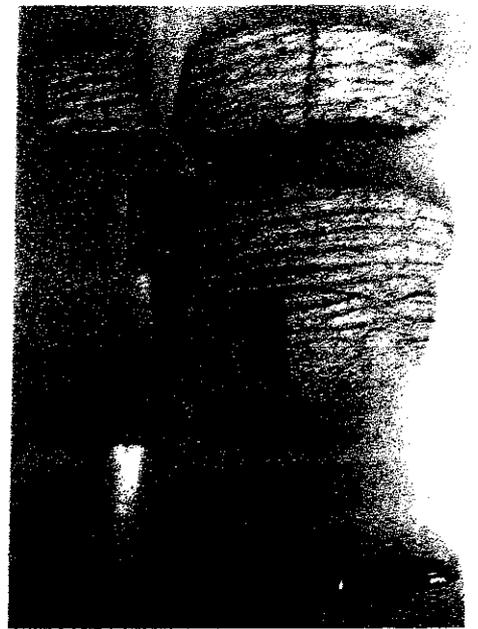


※縮尺任意



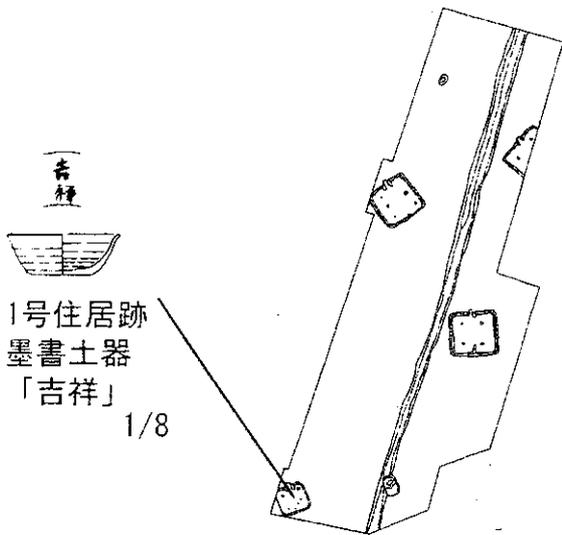
遺構配置 1/1,000

弥生時代の竪穴住居跡 (01D)



ヲサル山南遺跡出土沈線文系土器

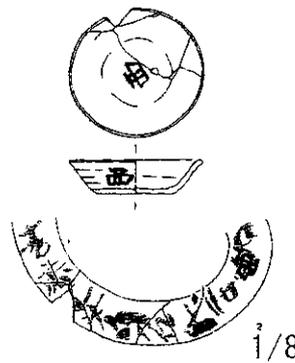
川崎山遺跡 (k地点)



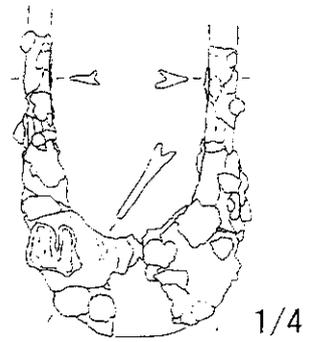
1号住居跡
墨書土器
「吉祥」
1/8

遺構配置 1/800

権現後遺跡

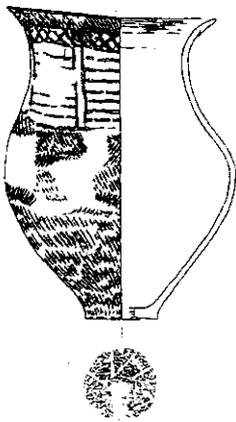


奈良・平安時代
墨書土器



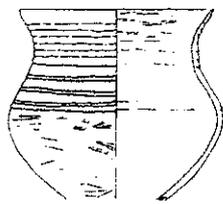
奈良・平安時代
鉄製品 (鋏先)
くわ

上谷遺跡出土遺物



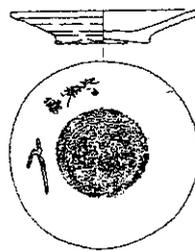
A151

栗谷遺跡出土弥生土器

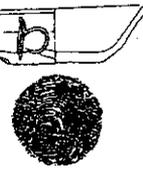


A080

1/8



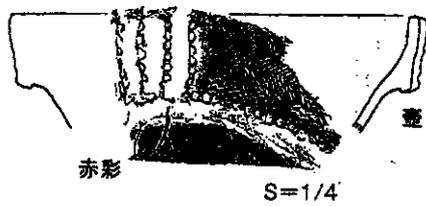
浅間内遺跡出土



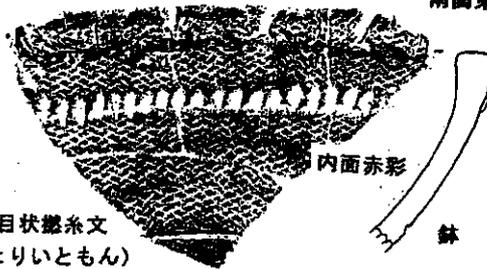
1/6



南関東系土器

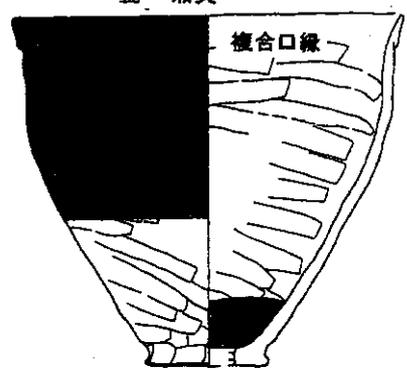
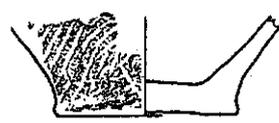
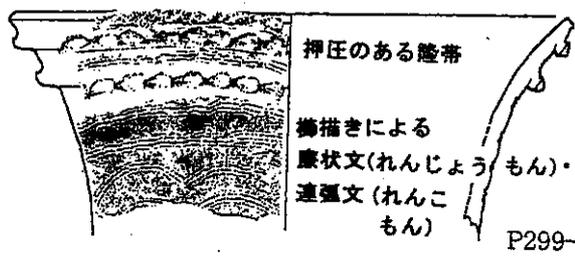


南関東系の土器



東関東系土器

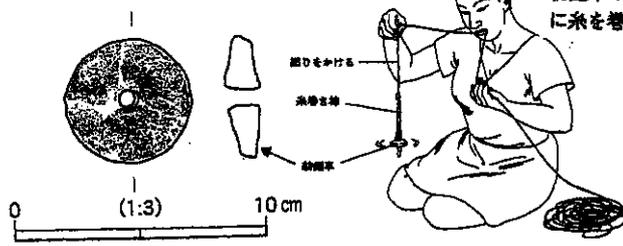
(あみめじょうよりいともん)



4 その他の遺物など

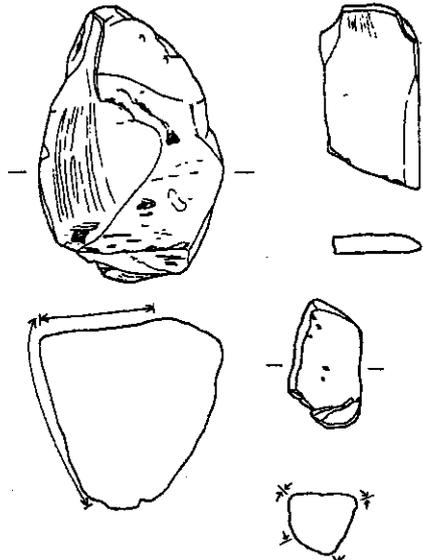
紡錘車 ●糸を紡(つむ)ぐ

1. 細長くつないだ繊維を口で湿らせる
2. 紡錘車の回転で撚りかける
3. 紡錘車の孔に通した糸巻き棒に糸を巻き付ける

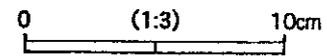


大田区立郷土博物館蔵『ものづくりの考古学』から

砥石 鉄製品を研いだのでしょうか？



木の葉の縁が見えています。



鉄製品 穂摘み具か

D80 住居跡の床面から出土

土器の割れ口が接れている

—編集後記—
古墳時代以降の詳しい報告は、
また次回以降に特集したいと
思います。



埋 (まい) やちよ No.16

—千葉県八千代市埋蔵文化財通信—

平成 20 年 2 月 22 日

編集・発行 八千代市教育委員会

社会教育課 文化財保護班

八千代市大和田 138-2

☎276-0045 ☎047(481)0304